

授業の開始にあたって、総長先生から受講生への「難しいところだが、しっかり勉強すれば合格につながる！」という激励があり、学生がこれからの授業にしっかり取り組むことが期待できました。

最初の課題は「貧困と階級社会」ですが、テキストのページ順にこの分野の知識を最初に説明するのではなく、宮園先生は、まず出題例から始めて、出題の意図と、小問2問に対するそれぞれの字数配分を説明し、実際に論作文を書くときの道筋を学生に意識させていました。

そのあとは、小問1・2についてそれぞれ、学生にテキストを読ませ、重要な点を一緒にマーカーを引くように指示しながら説明し、一通り理解が行きわたったところで暗記の時間を設けた後、解答の素案を作成させ、何人かに発表してもらい、講評するという本学のメソッドに沿って進められました。

この過程において、総長先生から「年収200万円未満が50%以上というだけでは、それが『低所得』であるかどうか分かりにくいから、平均が700万円であることも重要である」との指導がありました。また、埼玉県が社会福祉士を増やしているという記述に関し、本学が、社会福祉士等の国家資格の取得を重視し、支援していることを、改めて説明されました。前者は、必要なことを分かりやすく説明することの重要性を、後者は、自分の専門外について意識が低くなりがちな私たちにとって視野の広さも大切なことを、改めて教えていただきました。また、学生の発表もよくお聞きになり、よりよい論文にするためのポイントを丁寧に助言されていました。

3時限の終盤から、2つめの課題である「災害対策」になり、概ね同様の流れで授業は行われました。元公務員であったという宮園先生が、「採用試験の論文試験では、自分の考えを生み出そうとするのではなく、頻出テーマごとにポイントを覚えておき、それを基に論作文することが合格への道である」と、本学メソッドを裏打ちされていたのが印象的でした。